

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	'0770301703		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「希の家」 Aユニット		
所在地	福島県郡山市大槻町東阿良久37		
自己評価作成日	平成21年10月22日	評価結果市町村受理日	平成22年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成21年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市で初のグループホームとして7年目を迎え、お客様の身体レベルの低下も見られはじめていますが、スタッフ一同で認知や身体介護の知識向上に努め、日々業務にあたっている。 ・行事食はほとんど手作りの物やお客様の要望に添った献立もふまえて提供している。 ・庭・畑・ユニット内の装飾は季節に合わせて作っている。庭や畑作りの際には、お客様の要望も取り入れ整備したり、装飾ではお客様と作品作りを行っている。 ・毎日細かな事でもひやりハットを記入し、職員間で対応の統一・意識付けをしている。 ・お客様お一人おひとりに合わせた生活を送ってくださっており、時間にとらわれる事が無い。 ・認知症ケアに一生懸命な職員が多く、日常的にユニット内が明るく賑やかな雰囲気。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の職員育成体制が整っており、計画的に研修等が開催されている。また、職員一人ひとりが半年ごとに目標を立て、達成状況を確認しながらレベルアップをしていく目標管理システムを導入しており、若い職員が多いが落ち着いて利用者一人ひとりに沿ったケアが提供されている。利用者の希望を聞き取る『希クラブ』が開催されており、聞き取った意見に基づき『希叶えますツアー』を実施している。意思表示の困難な場合、家族と推測しながら支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念作りをスタッフ間で話し合い作成し、各ユニットへ掲示することで、周知されている。地域行事へも積極的に参加している。	事業所の理念は職員の意見を基に見直し、昨年度作り直した。共有空間に掲示したり、会議等の中で話しをすることで職員へ周知され、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ積極的に参加したり、地域の小学校の実習の受入を行っている。日常的に外へ出た際には、地域の方達との挨拶を交わしている。当施設からも地域に向け発信出来る事を検討し、より良い地域との繋がりを求めていく。	地域行事(芋煮会、夏祭り、お茶会等)に参加したり、ボランティア等の定期的な受け入れがあり、双方向で交流を行っている。運営推進会議の中で地域への事業所の情報発信についても意見が出され、チラシを作成し取り組みにつなげた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を通して、地域へ向けた広報誌を年2回以上発行し、認知症や当施設の理解・介護相談に取り組んでいる。市の福祉フィスティバルへ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常生活やイベント状況等の報告を行い、メンバーから出た意見は職員会議等を通してスタッフとの話し合いを行っている。施設の状況だけでなく、地域の行事予定を確認し、参加に取り組んでいる。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所の状況を報告し、委員から意見等が挙げられている。出された意見を基にサービス向上に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市の相談員が来所され、お客様との関わりを持ち過ごして下さっている。又、毎年福祉フィスティバルへ参加し、グループホームの紹介を行っている。	利用者から行政の情報が欲しいとの意見があり、行政と連携し、対応した。日頃から事業所の実情を伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する勉強会を行うことで、『身体拘束』への理解を深め、スタッフ間でお互いに指摘し合い拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会を事業所内で定期的実施し、職員へ周知している。身体拘束に当たらないか、日常業務の中で確認し合いながら、支援している。日中玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、知識向上に努めると共に、スタッフ間でお客様への関わりについてお互いに指摘し合える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に活用していたお客様がいた為、理解はしている。新人スタッフに対しては、勉強し理解活用して頂く為に、勉強会の機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に契約書や重要事項説明書を通して、法人の方針やグループホームとしての方針の説明十分に行い、理解・同意を得ている。又、ご家族様で不安や疑問点がある時には電話連絡や面会時に伺って対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回にお客様アンケートを実施したり、毎月1回希クラブを行いお客様からの意見や要望を確認し日々の業務や行事等へ反映している。又、玄関に意見ボックスを設置している。	毎月、希クラブを開催し、利用者の意見を聞き取っている。聞き取った意見を基に利用者の希を叶えるよう支援している。家族の意見等も事業所訪問時や家族交流会等に聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りや職員会議時、又は面接を通してスタッフからの意見や要望を聴き対応している。必要時には法人の上司へ報告・対応している。	管理者は日常的な職員会議や申し送り時に職員の意見を聞き取り、出された業務改善点等は法人へ報告している。速やかに改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に2回個人面談をし、業務目標の進捗状況や成果、普段感じていること把握したり、勤務表を作成するにあたっては、希望休等について随時スタッフと話をしている。又、運営者は管理者と随時面接しながら、職員の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて階層別研修を行い、参加することで知識技術の向上に努めている。又、グループホーム協議会の研修に参加出来る機会も確保している。受講した職員から報告を受けたりし、情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して、他の事業所との交流が出来ている。それを自分の職場に持ち帰り、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者が実態調査を行い、情報収集しそこから計画作成担当者や職員と暫定ケアプランを作成しサービスの提供を行っている。1対1での関わりを多く持ちお客様からの意見に傾聴し信頼関係作りに努めている。又、アセスメントを詳細に行い、分析・検討し第一印象を大切に取組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはご家族様からの意見を聴きプランへ反映させている。面会時などでは、お客様の生活状況を詳しく説明させて頂き、不安の解消・要望の吸い上げに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にお客様やご家族様からの意見を参考にし、今必要としている支援は何かをカンファレンスで検討し、プラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除など、家事を共に行うことで喜怒哀楽を共有しお互いに支えあって生活をしている。目上の方を意識してご本人様を尊重した言葉使いに注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日々の状態や受診時の報告を面会時や電話連絡・お便りにて報告し情報の共有をしている。又、お誕生会への参加の声掛けを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問に来て下さった方がまた来やすい雰囲気作り心掛けている。面会に来て頂いたり、手紙を書いたりして交流の継続支援を行っている。	家族や知人に面会に来てもらったり、利用者から手紙を書いたりして今までの関係が途切れないよう取り組んでいる。また、家族の協力を得て、お墓参り等に行けるよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で楽しめるようなレク活動や席の配置を考えて関わり合いを持っている。お客様が孤立しないようにスタッフが声掛けを多くして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話にて連絡をとり、その後の経過をお聞きしたり、ご家族の相談にも応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じてセンター方式を活用し日々の状態観察を行い、ご本人様の思い等を探りカンファレンスにて話し合いをしている。	日常会話の中から利用者の思い等を聞き取ったり、表情から読み取ったりしている。家族から得た情報も併せて、記録しカンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やそのご家族様から以前の生活環境やペース趣味等の情報を収集し、お客様お一人おひとりのノートにまとめスタッフ全員で周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスタッフ間での申し送りや経過記録を通して、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からの意見や要望を聴き、アセスメントやモニタリング・カンファレンスを行い、意見が反映できているケアプラン作成をしている。	利用者の身体状況の変化や利用者・家族の意向、実施記録に基づくモニタリング結果に職員の意見を取り入れ、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアの実施を行い、経過記録に記載や申し送りにて情報を共有し、実践しながら気付いた点や他のケアに対して、カンファレンスにて検討・見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の体調の変化に気付いた際やお客様からの訴え時、ご家族様と相談し、病院受診を柔軟に行い、安心や満足して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入ること、町内へのイベントに参加し地域との交流や活躍できる場を支援している。又、歌謡曲等のボランティアの依頼や訪問美容を活用したり、外へ出て床屋にかかる等豊かな生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人様やご家族様の希望に添った病院にしておき、継続的に病院受診を行っている。受診後には必ずご家族様へ電話報告・必要時には受診前にご家族との相談を行い、病院受診をしている。	入居前からのかかりつけ医が受診できるよう、職員や家族の通院介助により支援している。職員が同行した場合、すぐに電話で報告しているが、受診記録を後日家族に再確認してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から体調の観察をこまめに行い、変化が見られれば、看護師へ報告・アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関やご家族様との連絡を多くとり情報の共有を行っている。又、面会へいくことで、病院の医師や看護師と直接会話することで、関係作りに努めている。早期退院出来る様に、退院後の準備も早めに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いを行い、医師や医療機関との相談・協力を頂き、ご本人様やご家族様にとって安心した対応が出来る様にチームで支援している。	事業所の「重度化・看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。医療機関、利用者・家族、職員等で話し合いをしながら支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会や、消防署での訓練を行い実践力を身に付けている。又、緊急時対応マニュアルがあり確認はしているが、いざと言う時に冷静に対応できるように、定期的にマニュアルの確認の声掛けや勉強をしていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。又、夜間を想定した訓練も行っている。地域へは運営推進会議で呼びかけや相談を行っている。	年に2回の防災訓練計画に基づく訓練と自主訓練を実施している。備蓄も準備されてあるが、地域の協力体制はまだ構築されていない。	防災訓練と自主訓練を実施しているが、全職員が避難できる方法を身につけられるよう訓練の回数を増やされてはどうか。また、地域の協力体制が早急に構築されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格を理解し、目上の方をきちんと意識した声掛けやプライバシーの配慮が出来ている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけ等行っている。また、定期的に職員へプライバシー確保の研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がわかるような話し方や動作でお伺いをする事で、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のお客様の気分に合わせて、日々の業務は臨機応変に内容を変更しながら支援し、お客様のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様やご家族様希望の美容室を利用させていただいている。モーニングケアの際には、お客様と共に洋服選びを行っている。女性の方にはマニキュアや化粧をしお洒落を楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の皮むきや盛り付けをお客様と共に行い、お客様と同じ食事を同じ空間で頂くことで、和やかな雰囲気の中で食事を楽しむことが出来ている。	毎月の希クラブの中で利用者の好きなメニューを聞き取っている。聞き取ったメニューを献立に取り入れ、利用者と一緒に準備や盛り付け、後片付け等を行っている。利用者と職員がテーブルを囲み食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に食事・水分制限がある方や積極的摂取を支援しないと摂取困難なお客様へは管理に注意し、申し送りにてスタッフ間で周知している。食事摂取の少ないお客様へは、補食をして頂き栄養バランスが崩れないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い本人に出来るところまでは行って頂き、足りないところで介助しきれいにして頂けるように取り組んでいる。又、お一人おひとりに合った口腔ケアの工夫も、義歯洗浄剤も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様のトイレサインを見逃さず、声掛けにてトイレ誘導し快適に排泄して頂くように支援している。又、時間を確認しながら、トイレ誘導を行っている。カンファレンスを通して排泄方法・排泄用品の検討もしている。	利用者一人ひとりの排泄状況をチェック表に記録し、排泄パターンを把握している。把握した排泄パターンと利用者の様子等を見ながらトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取って頂いたり、食物繊維を多く含んだ食品の使用をすることで、排便を促している。人によっては下剤の処方もされているので、下剤の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様の気分や体調を確認して入浴の声掛けを行い、入浴を楽しんで頂いている。又、希望者には毎日入浴して頂いている。	毎日利用者のバイタルチェックをし、身体状況を確認し、利用者の希望を聞きながら入浴支援を行っている。入浴剤を使用したり、季節に合わせたかわり風呂(ゆず湯、りんご湯、菖蒲湯等)の日もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調に合わせて休息が取れるように支援している。又、寝具には本人の好む物を使用し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった際には、服薬後の状態観察を行い、申し送りや記録に記載している。受診カルテを確認し、薬の作用副作用への把握にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の趣味や得意なことを把握し活躍できる場を支援している。作り上げた作品はユニット内に掲示したり、作品集に綴じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩の希望があった際には、少しでも外へ出られるようにスタッフ間で協力し、散歩の支援をしております。普段行けない場所へは、イベントで希望叶えますツアーを実施した際に、本人の行きたい場所へ一緒に行き楽しんで頂いている。	天気の良い日は利用者の希望に合わせて戸外に散歩に出たり、買い物や事業所全体の花見等、外出支援をしている。また、普段行けない場所へは利用者ごとに希望を聞き、『希叶えますツアー』を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かけた際には、ご本人様に支払いをしていただき、お金の使用の機会を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にやり取りして頂いている。手紙が届いた際には、返事を送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や室温湿度・テレビ音楽の音量に注意し、こまめに調整している。ユニット内の装飾でも、季節感の味わえる飾りつけを行っている。	共有空間をはじめ事業所全体に季節に合わせた装飾を施し、季節感が感じられるように工夫している。また、ソファ、食事用のテーブル、畳み空間にあるこたつ等その時の気分で居場所を選び、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置くことで、独りで座りゆっくりされたり、気の合うお客様同士で座り会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居前に家庭で使用していた家具を持ち込んで頂き、ご本人様が安心して過ごせる環境作りをしている。又、物の配置や飾りつけ等は、本人・ご家族様とも協力し工夫をしている。	入居前から使っているタンス、鏡台、家族の写真、テレビ、ベッド等を持ち込み居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示の大きな時計を置いたり、トイレの場所が直ぐに分かるように『トイレ』の表示をしている。危険な箇所では必ず付き添い見守りをさせて頂き安全の配慮も行っている。		